

桜ヶ丘町防犯パトロール隊（茨城県）

茨城県土浦市桜ヶ丘町防犯パトロール隊隊長をやっております、那珂といいます。よろしくお願いいたします。

同じく事務局をやっております、アオノと申します。

本日の活動発表は、隊長の私、那珂伸一が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。



令和4年度 関東ブロック防犯ボランティアフォーラム

安心安全に暮らせる まちづくりを目指して



桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
4. 課題と解決に向けた取組方策

1

では、題して『安心安全に暮らせる街づくりを目指して』ということで、桜ヶ丘町防犯パトロール隊の活動を発表させていただきます。ご説明内容といたしましては、このように4項目で発表をさせていただきます。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
4. 課題と解決に向けた取組方策

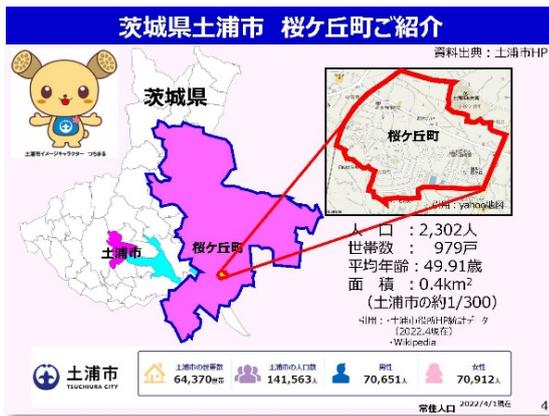
2



3

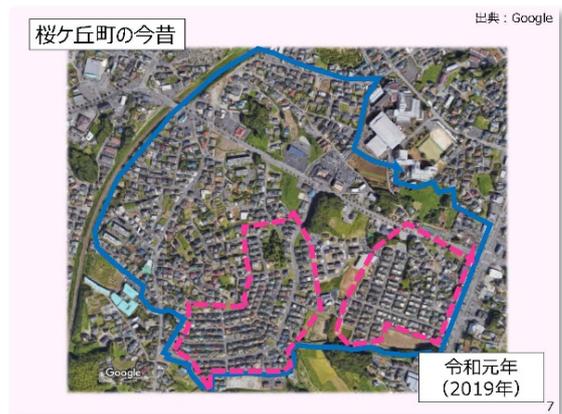
まず、活動地域のご紹介でございます。

私たち茨城県土浦市の紹介でございます。霞ヶ浦、筑波山、そしてさまざまな産物。こういったことで土浦市、非常に活気のある市でございます。



そして、この土浦市の中に私たちの住む桜ヶ丘町がございます。土浦市の南のほうにございまして、大体、人口が2300人。世帯数は約1000戸ということでございます。平均年齢は約50歳。面積としては土浦市の300分の1です。大体0.4平方キロメートルというような、こぢんまりとした町でございます。

ここで、桜ヶ丘町の今昔といいますか、これまでの発展の流れをご紹介しますと、昭和21年、1946年当時はこの桜ヶ丘町、ほとんど民家がございませぬ。田んぼや畑、そして雑木林。こういったところが、昭和、終戦直後の桜ヶ丘町ということでございます。



そして昭和50年代に入りますと、若干、集落というか民家が建ち始めますが、まだ大半の所は田んぼとか畑、雑木林に覆われている状況です。ここが昭和55年、1980年ぐらいい入りまして、大規模な住宅地の開発が始まりました。

瞬く間に民家で埋まって、現在は戸建て住宅が非常に多いような、こういった町になっております。おおむね1000軒ぐらいのお宅があって、二千数百名の方がいらっしゃいます。こういった町で、本来は人が住んでない所に急きよ人が集まってできたという、そういったような町の歴史がございます。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
4. 課題と解決に向けた取組方策

8

おいたちと概要

◆おいたち

2005(H17). 1.19 防犯パトロール隊発足
2006(H18).10.19 青パト団体認可
2018(H30). 9.29 新青パト車出発式



◆隊員数 55名 (2022年4月現在)

男性51名、女性4名、平均年齢約72歳

◆パトロール頻度 (2021年度実績)

徒歩パトロール : 月平均23回 (年273回)

従事者数延べ641名

青色防犯パトロール : 月平均14回 (年173回)

従事者数延べ351名

小中学生見守り立哨 : 月1~2回 (年18回)

防犯パト推進者会議 : 月1回 (年12回)

※3ヶ月おきに参加者範囲を拡大し、全体会議として開催



9

続きまして、団体の概要と活動成果でございます。

まず私たち防犯パトロール隊の生い立ちになりますが、平成17年、2005年、防犯パトロール隊が町内で発足しました。この経緯については後ほどご説明いたします。そして翌年には、すぐ青パトの認可団体を取得して、もう1つ2018年です、平成30年に念願の町内費で持つ青パト車を装備できまして、活動がさらに盛んになってきたというところでございます。

現在の隊員数は55名で、平均年齢としては72歳というような内容でございます。パトロール頻度、2019年度の内容でございますが、月間、徒歩パトロールが大体25回、年間で大体300回ということと、もう1つ、青色回転灯のパトロールが月平均25回、年間298回ということで、活発に活動しているということでございます。また、小学校、中学生の見守りとか、私たち、推進者、防犯パトロール隊の推進者の会合を月1回行う、そういったことで情報の共有を図ってございます。ただし、これ2021年の実績になりますが、徒歩パトロールのほうは若干の減なんですけれども、やはり青色回転灯のパトカー、どうしても狭い空間の中に隊員が乗るといことで、なかなか、まん延の時期に活動が中断してしましまして、昨年度については3分の2ぐらいの活動内容に落ちてしまったということがございます。

表彰

- ・H19年 土浦市わがまち活性化推進事業ほう賞 (パト活動)
- ・H22年 茨城県警・県防犯協会 地域安全ボランティア団体
- ・R2年 茨城県警・県防犯協会 地域安全功労団体表彰



10

青パト活動について

徒歩パトロールに比べて視認性が良く、より広い範囲をパトロールできることが魅力。

青パト活動開始時から隊員の自家用車に協力してもらい、青色回転灯を乗せて2~3台で運用してきた。



- ・所有者に無理は言えず、月1回程度の巡回が限度。
- ・巡回中に事故を起こした際は所有者保険での対応に。



町内会で防犯パトロール隊専用車両を装備したい!

- ・町内会で保険に加入する事で個人補償リスクを回避
- ・個人⇒共用車両化で従事者を拡大し、青パト回数を増加
- ・放送機能を持たせての広報活動で存在感UP
⇒町内における犯罪発生抑止力の飛躍的向上が期待できる。
青パト車が町の犯罪抑止シンボルとなり、住民の防犯意識の
一層の高揚が期待できる。

11

表彰の状況でございますけれども、このように土浦市、もしくは茨城県警、県の防災協会の皆さまからこのような表彰を受けまして、私たち隊員の活動の大きな励みになってございます。

ここで、青パト活動について触れてみたいと思います。青パトが、徒歩パトロールもいいんですけども、広い地域を視認性良く回る事ができるということで、非常にパトロールとして魅力的な活動でございます。ただ、青パト活動の始まる頃は、隊員の車をお借りして、そこで青パトの登録をしていたから運用をするということで、どうしても持っている方に運転していただくということになるんで、なかなか回数が上げられないと。無理言っても月1回ぐらい協力してよということしかできてなかったということがございます。また、巡回中に車ぶつけちゃったよとかいうことになりまして、個人の保険で直していただくと。公共に近い活動しているんですけど個人の負担になると。そういったところ

が悩みの種でございまして、何とか町内会でパトロール車を装備したいというふうに考えておりました。そうすることによって回数も多く上げることができますし、また、保険のところも町内会の保険で何とかできると。こういったところがあって、何とか青パト車を自分たちで装備できないかということを考えてまいりました。

土浦警察署や土浦地区防犯協会から情報を頂き、日本財団の『青パト配備助成事業』に申し込み、念願の**パトロール隊専用青パト車**を導入することができました。

2018年9月 出発式開催



出典：NEWS21ば 12

青パト活動の充実と拡大

- ◆**青パト活動実施者の拡大**
実施者証保有者：2018年実質8名⇒2022年には28名に。
無理なくパトロール回数を充実できる体制を構築してきました。
1～2回/人・月で毎週約5回の青パト巡回を継続しています。
- ◆**青パト実施予定表の作成**
毎月、従事者予定を確認し、日時を分散して様々な時間帯で町内を巡回しています。
- ◆**青パト広報活動**
巡回中は車載放送装備で防犯意識向上と対策を呼び掛けています。
- ◆**青パト車保管場所**
桜ヶ丘町公民館駐車場に保管しており、従事者がここから出発、町内巡回することで運行の利便性を高めています。13




こちらのところ、土浦警察署のかたがた、防犯協会のかたがたからいろいろ情報いただきまして、2018年、何とか町内会の青パト車を、補助をいただきまして導入することができました。2018年の9月に出発式のほう行いまして、行政のかたがたにも来ていただいて、盛大に出発式を挙行することができました。

青パト車はそろったんですけど、やはり活動のサイクル、上げていかないといけないというところで、ここで、この青パト車を導入した当初、実施者証を持っている方が8名しかなくて、結局そのかたがたがフル回転でパトロール活動をするということがありまして、ところが現在は28名ということで拡大してまいりました。無理なくパトロール回数を充実できる体制がようやく整ってきたということございまして、大体1人、月1、2回、青パト車で参加していただければ、週に5日ぐらいのパトロールが確保できたということと、もう1つ、従事者の予定表を月間でうまいこと作ることで、日にちとか時間を分散して、きめ細かくなるべく広範囲でパトロール活動が、時間帯も振りながらできるようになりました。青パト車、放送設備を装備していますので。

【放送】 こちらは、桜ヶ丘町防犯パトロール隊です。

こんな音楽をかけながら、いろいろな、防犯の意識向上の放送しながら町内のほうを巡視するということで、視認性とか、あとは町内の方への呼び掛けなんか積極的にできるようになっております。また、保管場所も町内会の公民館に置くことで、従事者が公民館の駐車場に自車で来て、乗り換えてパトロールに出ていただくということで、パトロールの利便性を上げることがこういった活動の拡大に寄与しているというふうに考えております。

防犯パトロール隊 発足経緯

2003年（平成15年）当時、犯罪率・県内ワースト2を返すべく、2004年土浦市全域を挙げての自主防犯組織育成事業がスタート。これに呼応して桜ヶ丘町内会も地区長を隊長として防犯パトロール隊を設立し、町内犯罪抑止活動に乗り出すこととした。

※犯罪率：人口1万人当たり犯罪認知件数

2004年（平成16年） 桜ヶ丘町内の主な犯罪発生件数

空き巣	7件	自転車盗	4件
出店荒し	3件	バイク盗	5件
ひったくり	1件	部品狙い	2件
車上狙い	5件	自販機狙い	2件
自動車盗	1件	その他	1件

出典：2005年1月17日茨城新聞

14

活動成果

2004(H16) 当時、年間35件の犯罪が桜ヶ丘町内で発生していた。2005(H17) 桜ヶ丘町防犯パトロール隊発足

茨城県警、土浦警察署等の取り組み+防犯パトロール隊の努力により年を追うごとに犯罪件数が減少しています！



15

続きまして、防犯パトロール隊の発足の経緯になります。2003年、この頃は土浦市が茨城県の中でも犯罪の発生率がワースト2位だということで、こちら、土浦市全域を上げて自主防犯組織を育成させようということで、このワーストツウを何とか返上しようじゃないかという機運が高まりまして、こうして私たちの町の、町内会のほうで、町内会の中に防犯パトロール隊をつくる。町内会長が隊長となって、この防犯パトロール隊を組織してまいりました。こちらに載っているのが、2004年、平成16年頃の桜ヶ丘町で発生している犯罪の事案になります。大体1000軒の町の中で年間35件ほど、こういったような大きな事案が発生するというので、安心安全の町とはほど遠い状況がこの当時にはございました。これ、土浦市の各町でも同様の状況があったというふうに聞いております。

そこで2004年に、何とかこのような状況だったのを、翌年、防犯パトロール隊を発足させてパトロールを逐次展開してきたわけです。そういったところ、主に茨城県警の皆さま、土浦警察署の皆さまのおかげとっておりますが、私たちのパトロール活動というのも、こういった犯罪の抑止に寄与しているのではないかと我々考えておまして、こういった成果が表れているところも隊員の励みになるというところで、こういったところからももっと頑張ろうよという機運が高まっております。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
 - 1) 町内会、小中学生育成会と連携した活動
 - 2) 町内の暗がり解消
 - 3) 団体維持の工夫
 - 4) 防犯のぼり旗や看板の計画的維持管理
 - 5) その他一般活動

16

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

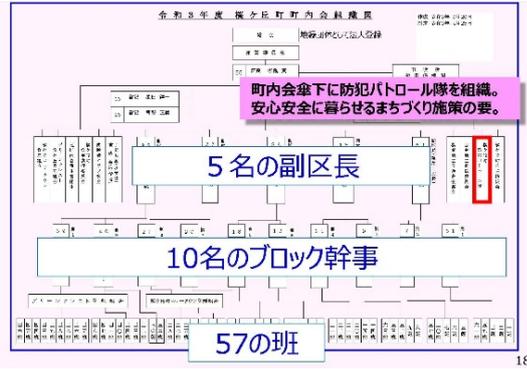
1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
 - 1) 町内会、小中学生育成会と連携した活動
 - 2) 町内の暗がり解消
 - 3) 団体維持の工夫
 - 4) 防犯のぼり旗や看板の計画的維持管理
 - 5) その他一般活動

17

続きまして、防犯パトロール隊の活動内容のご紹介になります。内容としては、この5点でご説明をさせていただきます。

まず最初に、町内会と小中学生の育成会との連携した活動ということでご説明いたします。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊の位置付け（町内会組織）



18

桜ヶ丘町町内会活動運営方針

活力あふれるまちづくりの推進

◆安心、安全に暮らせるまちづくりの推進

→ 皆さんの交流が盛んな、絆の強いまちづくりを目指す

1. 人と人との触れ合いを高める事に重点を置いた活動
2. 『ふるさと桜ヶ丘』の想い出として記憶に残る町内行事の推進
3. まちぐるみでの防犯・防災活動の推進

年間を通じて様々な行事や活動を推進

町内主催主要行事

4月 町内会総会
5月 ゴミゼロ作戦
6月 前期親睦ゴルフ大会
7月 夏まつり（2日間）
8月 さらまつり親子コンテスト
盆踊り大会

9月 敬老お祝い品お届け
防災訓練
10月 市民体育祭
11月 後期親睦ゴルフ大会
12月 もちつき大会
2月 町内会合同雑卸し

その他の行事

・子ども産品回収（通年）
・防犯パトロール（延べ320回）
・高齢者クラブ校会各種行事
・子ども各種行事
・民生委員懇談会

※いづれもコロナ禍

19

これは町内会の組織図になりますけども、その中に防犯パトロール隊というのは、町内会組織の1つの関係団体ということで位置付けられておまして、町内会の傘下で活動をしております。安心安全に暮らせるまちづくりをということで町内会で掲げている活動が私たちの施策の要ということになります。

これが町内会活動の運営方針でございますが、やはり人と人との触れ合いを高める。防犯パトロール隊の皆さまが非常に和気あいあいとやっていくということ。もう1つは、町ぐるみでの、防犯防災の活動を推進しようということ、こういったところにも、私たち桜ヶ丘町防犯パトロール隊の活動の原点があるということでございます。

町内会と防犯パトロール隊との連携



そして、町内会との連携でございますが、私たち防犯パトロール隊というのは、町の中をくまなくパトロールして、ただ単に犯罪事案だけを見ているということではなく、やはりいろいろな問題点というものにパトロールをしながら気が付くということがございます。私たちは、いわば町内のセンサーの役目をして、町の中のさまざまな状況をモニタリングしてございます。そういったものを月1回行われる、防犯パトロール推進者会議、この場で町内会と情報の共有をいたしまして、これを受けて町内会側が、行政のかたがた等々と連携を図って問題

点の解決にあたる。もしくは町内会側から町の皆さんに、警察のほうからもいただける防犯ファイルとか防犯ニュースを、そこに隊員のいろんな思いを織り交ぜながら、回覧物等を回しながら町のかたがたへ防犯意識の向上というものを呼び掛けると。こういった形で町と連動しながら活動してございます。次に、小学校や中学校の育成会の皆さんともここで連動を取っておりまして、先ほどの推進者会議、毎月やっていますが、3カ月に1度は小学校中学校の育成会さんもお呼びして、さらには全体会議という拡大会議ということで、小中学校の様子だとか、生徒さん、子供さんたちの情報もここで共有しながら、さまざまな施策に充てるということ活動を中に入れてございます。こういった形で町内会や育成会、諸団体との連動を図っているということでございます。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
 - 1) 町内会、小中学生育成会と連携した活動
 - 2) 町内の暗がり解消
 - 3) 団体維持の工夫
 - 4) 防犯のぼり旗や看板の計画的維持管理
 - 5) その他一般活動

21

活動の進め方・運営方法への工夫

パトロール隊員相互が親睦を深めながら、健康増進も兼ねながら、**散歩しながら・・・気楽に参加**できる雰囲気を大切にする。
⇒ **隊員数・回数増加につながる!** (発足時 25 ⇒ 5 5 名へ)

町内を**4つのエリア・班**に分け、**各班に推進者** (リーダー) を置いて、それぞれの班に所属している隊員の都合を聞きながら月間パトロール当番表を作成。

⇒ **無理なく、ムラなく**、パトロール日程とエリアを分散することができます!

過去に町内で窃盗等の犯罪が発生したエリアは推進者間で共有し重点的にパトロールを行うように工夫しています。



22

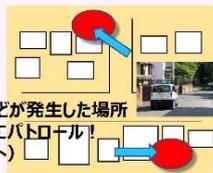
続きまして、もう1つの活動としては、町内の暗がり解消ということも防犯パトロール隊で担ってございます。これ、我々夜間もパトロールをしますので、歩いていると町内で暗がり分かるんです。ここは防犯灯が少ないねとか、民家の明かりが少ないねということにも気付きがありまして、こういったことを町内会と連携することで、この暗がり自体の解消とか、例えば防犯灯が壊れているのに気付けば、すぐ連携を取って修理するという事で、町内全域からの暗がりの解消というのも進めております。例えば車両盗難が何回か出た所には、町内会に頼んで防犯灯を付けてもらって暗がり解消をしたと。こういったところからも、最近はここで車両盗難とか車両荒らしというのは起きていない。明るくするとだいぶ違うなということを痛感しております。そしてもう1つ、団体維持の工夫。団体維持というか活動維持のさまざまな工夫を行っております。活動の進め方などの工夫で、楽しく、役目として回るというよりは、皆さんで散歩がてらとか、そういった気持ちで話すことを楽しみながら回ろうということ 키워ワードに活動してまして、こういったところが、隊員のかたがたを、お友達を呼んで一緒に回るとか、そういった形で、発足当時は25人しかいなかった隊員が50名を超えるようになってきたというのも、こういったところの雰囲気づくりからかなと思っております。

また運営面では、町内を4分割してそれぞれに推進リーダーを置いて、こういったかたがたが情報を共有しながら、無理なくムラなくパトロールの日程とエリアを分散することで、ほとんどの日が町の中で誰か歩いているというような活動を繰り返してまいります。町内で窃盗とか事案があったときには、そこから辺を他の班も重点的にカバーするというようなことで補いながら活動を進めてまいります。

パトロールしながらゴミ拾い!



過去に窃盗などが発生した場所
周辺を念入りにパトロール!
(ホットスポット)



夏祭りや盆踊りの開催中に会場周辺・町内をパトロール!



23

一例でございますけど、環境美化活動なんかも歩きながらやろうとか、先ほど申したような事案のあった所ではスポットという扱いにして、なるべくそこで時間を使って確認しようとか、そういった展開をしてございます。また町内でいろいろ行事がございまして、そういったときは町内のかたがたが一カ所に集まっちゃったりすると、どうしても町の中が手薄になるというところで、我々防犯パトロール隊が住宅地の中を回る。こんなような活動をしながら、町内の活動の中の工夫をしております。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
 - 1) 町内会、小中学生育成会と連携した活動
 - 2) 町内の暗がり解消
 - 3) 団体維持の工夫
 - 4) 防犯のぼり旗や看板の計画的維持管理
 - 5) その他一般活動

24

防犯のぼり旗や看板の計画的維持管理

防犯のぼり旗や看板は防犯意識の高さを示すのに有効である反面、傷んだままの放置は逆に防犯意識の低さの表れとなってしまうので、適切な維持管理が必要。



25

そして、もう1つ大きな役目が、防犯のぼり旗の維持管理です。

皆さん、ご町内でもやられていると思うんですけども、防犯のぼり旗っていうのは、結構、町の頑張り度合いを示すいい仕掛けになるんですけども、一步間違えると、ぼろぼろの旗が入ると、見た目には、この町なんか大したことないなというふうに逆の効果が出てしまっていて、そういったことにならないように、管理ナンバー決めて、マップを決めて、管理者も決めて、常にとというか、ぼろぼろにならないように気を付ける。あとは台風のとときには見回って旗竿をしまおうとか、そういったような地道の活動で、せっかくの活動が台無しにならないように維持管理のほうにも努めてございます。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
 - 1) 町内会、小中学生育成会と連携した活動
 - 2) 町内の暗がり解消
 - 3) 団体維持の工夫
 - 4) 防犯のぼり旗や看板の計画的維持管理
 - 5) その他一般活動

26

小中学生 見守り立哨

・月2回、小中学校の下校時に合わせて、子どもたちの見守り立哨を実施しています。



27

その他の一般活動といたしまして、子供の見守りということにも力を入れておりますが、不審者なんか近くに出ることがございます。そういったときは臨時でパトロール隊員で回ろうということをやったり、子供会さんのほうから感謝状を頂いて、さらに活動に励みが出たと。こういったところでもございます。

リレーアタック防止実証試験と町内への情報提供

28

様々なイベント・研修会への積極参加

防犯ボランティア研修会（茨城県）や安心・安全まちづくり市民集会（土浦市）などの研修会や、パレード等イベントにも毎年積極的に参加しています。

隊員同士の一体感も高まります！

みんな！協同のまちづくりシンポジウム

防犯講演会の開催

土浦市安心・安全まちづくりパレード

29

また、リレーアタックという車両盗難があったときは緊急会をやって、こんなことをやると防げるかもしれないねとか、そういったような話題を町内のほうに提供して、住民のかたがたの危機意識を高めてもらおう。そういったこともやっています。

あとは、さまざまなイベントとか研修会へ積極的に出ることで、我々自体も新しい情報を得たりしながら、それを活動の中に生かすということを取り組んでいます。

警察署と連携した住宅防犯診断の実施

新しい生活様式におけるパトロール活動運営方法 (COVID-19対応)

① 徒歩パトロール実施方法
 ② 青色パトロール車パトロール実施方法

青パト活動 新型コロナウイルス感染拡大対応

- ◆ 運転者、同乗者問わず、風邪や発熱などの体調不良時は実施しないでください。
- ◆ 運転者、同乗者は必ずマスクをしてください。

リモート会議にもトライ！

31

昨今では、警察署のかたがたのほうで住宅防犯診断ということで取り組まれておりまして、ここに私たちは防犯パトロール隊が一緒に行くということで、町民のかたがたの知った顔も一緒に来るんで、より訪問しやすくなったりとか、いろんなお話をしやすくなると、そういった環境の中で、土浦警察のかたがたと連携を取りながら住宅の防犯診断のほうも進めてございます。こういったことを昨今では取り組みに加えているということでございます。

先ほども申しましたように、感染症対策のところでは非常に当初苦労をしましたが、いくつかのやり方を見つけ出して、そういったことでパトロールの頻度が落ちないように。とは言っても、感染リスクが上がらないようにということで、さまざまな工夫とかルールを作りながら、防犯パトロール活動を何とか継続することができております。

桜ヶ丘町防犯パトロール隊ご説明内容

1. 活動地域のご紹介
2. 団体の概要と活動成果
3. 活動内容ご紹介
4. 課題と解決に向けた取組方策

32

課題と解決に向けた取組み方策

◆パトロール従事者の高齢化

【原因】町の沿革から否めない事実。

【対策】若返り！

- ・隊員向け健康教室開催で**隊員の健康増進**！？
- ・同年代の知り合いに限らず、**幅広い年齢層へのアプローチ**を！

◆隊員数の伸び悩み：

【原因】知り合いを通じた勧誘

【対策】勧誘への工夫を！

- ・防災訓練、盆踊り、防犯講演会など**あらゆる機会**を使って
- ・小中育成会と「**コラボパト**」（子どもと保護者同伴の合同パト）
- ・「**ちよこつとパト**」の推進（ちよこつと買い物時にパト）

33

そして最後に、課題と解決に向けた取組み方策ということでご説明させていただきます。

まず一番は、パトロール従事者の高齢化という問題がございます。先ほど、町の生まれ方をご覧になったように、町に一気にたくさんの方が同時期に見えたということで。大体、戸建て買われる方の平均的な年齢というのが近いところであって、どーんとその人たちが入ってきましたので、その人たちが年齢が上がっていくと、それがほとんど町全体の年齢になると。こんなような町の背景がございます。そういったところで、なかなか若手の方が住む所というか、ほとんど家が埋まってしまっているの、なかなか若手の方がいらっしゃらないというところ。あとは、どうしても知り合いを探しちゃうところがあるので、同じ年齢層の方だけが入ってしまう。こんなところが課題で、ここに対してはもうちょっと幅広い年齢層にアプローチしないといけないです。そういったところにも、今、目を向けながら募集をかけている状況です。また、隊員数の伸び悩みでございまして、ある程度増えたところで安定してしまっていて、逆にもうちょっと多かたがたに来ていただかないと、だんだんとリタイアされる方もいらっしゃいますので、そういったところの伸び悩みということも課題となっております。あらゆる機会で防犯パトロール活動を町内のいろんな行事で紹介して、例えば子供会さんとかだと、コラボパトロールとか、イベント的なことをやりながらパトロール実感していただいて、その保護者の方をうまく入っていただくとか、あらゆることをやっていかないと、なかなかこの辺は難しいなというふうに思っております。

◆住民への更なる防犯意識の浸透

【原因】犯罪は減っても起き続けているのに他人事？

【対策】かもしれない…の自分事へ

- ・住民向け防犯講演会開催や犯罪状況回覧等の**広報活動拡大**
- ・青パト車の愛称募集（パトロール車両をより**身近な存在**へ）
- ・門柱灯一戸一灯活動の呼びかけ（習慣化で**日々の意識付け**）

◆パトロールルートの偏り

【原因】散歩はルートが固定化しがち

【対策】ルート設定への工夫

- ・スマホ経路アプリでルートを記録・集計・解析し、**偏り・疎密を解消した最適ルート**を提案
(デジタルトランスフォーメーション)



34

「安心安全に暮らせるまちづくりを目指して」
楽しく和気あいあいと活動を推進し、町全体の
更なる防犯意識向上に努めていく所存です。



ご清聴、ありがとうございました。

35

もう1つの悩みとしては、住宅へのさらなる防犯意識の浸透ということで。青パトカーとかいろんな活動も、大体、皆さんも慣れてきちゃったところがあって、そういったところで新手法の技を繰り出していかないと、市民のかたがた、他人事とまではいかないのですが、犯罪に遭う可能性を自分事としてなかなか捉えていただけないところがございます。そういったところをいかにして自分事にしていただくかということが問題点でありますし、あとは散歩がてらということでルートがだんだん決まってしまうので、例えばウォーキングのアプリなんかを使うと、結構、こういうルートなんかも後

で可視化できますので、こんなものも使いながら工夫した活動をしていきたいなというふうに思っています。

ということで、『安心安全に暮らせる街づくり』、これを目指して私たち防犯パトロール隊、楽しく和気あいあいとこれからも活動を推進して、町のさらなる防犯意識の向上に務めていきたいというふうに考えてございます。以上で発表を終わります。ご清聴、どうもありがとうございました。

講評

木宮 率直な感想ということでいうと、非常に精力的に活動されていて、防犯活動の頻度なんか、大変これだけの数のパトロールをされるというのは、むしろまれであるというわけです。非常に精力的に活動されているなという印象です。また、ご説明にあったように、新しい、新興住宅街そのものの課題という部分、これは多くの地域で共通する部分もあるのかなということで、非常に参考になるお話をいただいたなと思っています。

青パトの使い方、これも多くの同じような団体さんでも、青パトをうまく活用したいというような、そういうことあるかなと思うんですけども、今回ご説明いただいたような導入の事例も、恐らく他の団体さんの参考になるところが多くあって非常にいいなというふうに思いました。あと、ながら見守りやってるんですね。これは、よく最近、特に子供の見守りという視点でいうと、ながら見守りを推奨しようということで、散歩しながらとか、買い物しながら見守りしてくださいという話なんですけど、今日のお話ですと、逆の意味で見守りしながら散歩するということですかね。これは、今まで推奨していたものと意味合いは似てるんですけども、ちょっと感覚が違うっていうか、これは非常に新しい発見をいただいたと思っています。

防犯活動そのものがそういった健康増進になるとか、楽しみなるとかっていうようなところは、これからの新しい形なのかなというふうに思っていますし、またお話の中であった、防犯だけではなくてプラスアルファの機能、町のセンサーという言葉もありましたけれども、そういった防犯ボランティアが違う機能を持って行って、町内の中で重要なポジションになっていくという、こういったところも今後の新しい求められる形ではないかなというふうに感じたところです。非常に他の参考になるような事例がたくさんあって、私自身も勉強させていただいたなというふうに思ったところです。ありがとうございました。

邑楽町第五区防犯活動グループ なかま（群馬県）

皆さん、こんにちは。群馬県邑楽町からまいりました、防犯仲間で安心安全な町づくりを目指し活動しております。小島とセキカワでございます。よろしくお願いいたします。発表を小島のほうから行いますのでよろしくお願いいたします。



邑楽町第五区防犯活動グループ 「なかま」 (群馬県)

「できる人が、できる時に、できる範囲で！」



邑楽（おうら）町はどこ？



それでは説明させていただきます。

私たち群馬県の邑楽郡邑楽町っていう所で活動をしています。この邑楽町、なかなか読めない、そうおっしゃる方が多いんですが、これでおうらと読みます。群馬県の東部に位置しておりまして、群馬県は鶴が羽を広げた形と言われてます。群馬県の特に東部、鶴の顔の辺りでしょうかね、そこで活動しております。人口は2万6000人弱、そういった町でございます。隣には太田市、館林市、隣の栃木県の足利市と隣接しております。

邑楽町第五区について



- 世帯数等
- ・約310世帯
 - ・約800人
 - ・閑静な住宅街
 - ・商業通りや駅、小学校がある

3

「なかま」の概要

「犯罪はいつどこで起こるか分からない」
「地域を守るために私たちができることは何か」

平成18年2月 結成
地区有志で仲間を募集 当初19名

現在 構成員23名
平均年齢52歳で活動中！

4

この邑楽町、34の行政区がございます。そのうちの1つが私たち第5区になります。310世帯。規模にしますと邑楽町ではちょうど中間ぐらいです。大きな行政区は1000世帯を超える。小さな所では100世帯に満たない。そんな行政区がある中で、規模的には、皆さんの考えをいろんな方に、区民の皆さんに届けるのには非常にちょうどいいような、そして意思の疎通が図りやすいような、そんな行政区になっています。そしてこの邑楽町、中学校が2つ、小学校が4つございます。そのうちの1つ、私たちの

行政区に小学校がございます。そのこともあって、子供たちが登下校で我々と接する機会が大変多い、そんな地区になっております。

私たちが活動を始めるきっかけとなったのは、結成は18年の2月になります。この平成16年、17年、ニュースで、誰でもよかったから人を殺すとか、また、人を殺して自分も死ぬ、そんなニュースを時々耳にするようになりました。私たちも、今、安全なこの邑楽町。しかし、いつどこでどんなことが起きるか分からない。そんな危機感を覚えるようになりました。そんなときに、すごいことはできないけど、何かできることはないだろうか。それを考えるきっかけをつくるだけでも始めてみよう。そうしたことから、我々がこの仲間を、一緒に防犯活動をやってくれる仲間を募集しました。仲間を募集するということで、会の名前も決まらなかったのですが、みんなで仲間を募集する、仲間、仲間と言っていて、そのまま私たちのグループ名、『防犯活動グループなかま』ということで、その後もずっと活動することになりました。当初は19名の方が、半年間の間に皆さんが参加を希望してくれました。現在は23名。だんだん年齢が高齢になり、若い人がどうしたら入ってくれるのか、この後の話になりますが、そういった課題を設けながら、今23名で活動をしております。

「なかま」の理念

結成後、理念を決め、確認し合った
活動を末永く続けるために

3き・・・

気楽に、気長に、危険なく

できる人が、できる時に、
できる範囲で

5

「なかま」の活動内容

- 1 子供への地域安全啓発
- 2 下校時間帯のパトロール活動
- 3 地域における防犯イベントの開催

6

そして私たちが考えたのが、あまりハードルを上げると長く続かないよね、だったら、できることまず最初に、無理なくやっていくことはどんなことができるだろうか、そういったことを考えてみよう、それが私たちの最初の理念、考えとなりました。3きの理念で、気楽に気長に危険なくやろうよ。それが私たちみんなの意見でした。そして、できる人が、できるときに、できる範囲で。用事があつたり無理に参加できなくてもいいよ、来てくれたときはありがとう。感謝の気持ちで、来てくれたときはみんな一緒に頑張りましょう。そういったことで会をスタート、運営してまいります。

そして、私たちの活躍の内容についてですが、まず子供たちが自分自身で身を守るすべ、何が危険でどこが安全なのか、そういったことを知ることも重要なことかな、そういったことを考えて子供たちにどんなことをしていったらいいかを考えました。それと下校時のパトロールです。下校時にみんなで、パトロールです。それと同時に交差点に立って見守り活動をしました。子供たちとあいさつ活動をつなげて、皆さんのメンバーのやる気も大きく増えたことを記憶しております。

そしてもう1つ特色となるのが、参加している私たちだけの防犯活動でなくて、一人でも多くの人に少しでも防犯意識の向上を図ってもらえるような、そんな機会をつくることができないだろうか、そういったイベントを行うことができないだろうか、そういったことを考え工夫することを検討してまいりました。



啓発として、まず先ほど申し上げたように、子供たちに危険な場所、安全な場所を知ってもらふ。そのために、子供たちに安全安心マップを子供たちの手で作ってもらふことを考えました。私たちの地区を中心に4つのグループに分けて、小学生、中学生を中心に大人も含め4つの班で、各場所の危険箇所、そして子供たちにとって何が安全なのか、そういったことを学びながら地図を作ることを始めました。そのときに、子供たちの防犯意識を向上させることと同時に、地域のかたがた、たくさんの地域のかたがたにも参加していただくことによって、地域を巻き込んだ防犯活動、そういったことにつなげられるように、子供たちと地域の方を呼び掛け、安全安心マップの製作にあたりました。

そのときの風景がこの画面の風景になります。まず中学生に、私たちの地域の地図を手書きで大きな模造紙に書いてもらいました。そして4班に分かれて、子供たちが注意事項、書き込んできたことを持ち寄って、それを手書きで書いてマップに貼るといふ、そういった本当に単純な作業。でも、そのことによって、子供たちにとっては自分たちで作った安全安心マップ、そういった意識が芽生えたように感じました。その後、その安全安心マップを中心にしてすごろくを作りました。私たちの地区のすごろく。今、なかなか子供さんにすごろくってあまりなじみがないですが、我々は小さい頃、すごろくをやって遊んだ記憶があります。そこには、私たちの先ほどのマップにあった危険箇所。もちろんすごろくですから、ここで先生と会ってあいさつをすると3個進むと。ここは暗くて危ないので2個戻るとか。そういったことで皆さんと楽しみながら、すごろくでもう一度危険箇所の確認を復習する機会をつくることができました。



これが、参加してくれた子供たちとそのときに作った、わりかし大きな安全安心マップになります。ほとんどが子供たちの手書きになっていて、犬にほえられたとか、いろんなコメントが寄せられました。木がいっぱいあって嫌だ、危ないぞ、嫌だなんていうコメントがきて、そのまま多分、書かれたまま貼ってあると思います。子供たちの言葉で作った安全安心マップが出来上がりました。

そして下校時のパトロールなのですが、下校時のパトロールはもちろんのことなのですが、交差点での見守り活動。小学校の近くに何個か危険な交差点がございます。そこに私たちが、もちろん出られる方が参加するのですが、交差点に立って。交差点に立っていて感じることは、我々がこのベストを着てあそこに立っていると、信号機が黄色になる前にかなりの方が減速してくれます。これは非常に大きい。そして子供たちも、最初のうちはなかなかなじめなかったのですが、今は何回も会うので、本当にフレンドリーに話ができる関係ができたこと、そのことも大変ありがたいと思っています。その交差点に立っているときには、一度も事故がございません。そのことは我々のメンバーの間でも、われわれは子供の命を守っている、そんな意識で活動をしています。

他の地域や他の防犯ボランティア団体との協力

- ・ 防犯活動のマナー化の防止
- ・ 情報交換による課題の解消



他行政区との合同パトロール

11

地域における防犯イベントの開催



With 警察、行政職員、他のボランティア団体

大学演劇部との寸劇 etc

子供から高齢者まで

防犯意識向上

12

それと月に1回定例会ということで、その月にあった危険な情報、また、最近起こっていた情勢について皆さんと情報交換をする機会があります。そのときには、夜間のパトロールを実施しています。30分、直線で行くと15分なのですが、30分ぐらい歩いて行ける所に駅があります。私たちの町は1時間に1、2本しか駅に電車が通らないので、7時半の時間帯にはその駅に、上り線下り線、両方来る時間帯があります。それに合わせて30分間、三方に分かれてパトロールして、その駅にその時間帯、7時半に戻ってこられるようにして、そこで学生と会社帰りの方にもあいさつ運動をしながら、防犯意識の向上を図れるようなPRをさせていただいております。

それと、地域において防犯活動のイベントを行っています。先ほど申し上げたように、一部の人が強い防犯意識を持つことだけじゃなくて、本当に皆さんに防犯について語ってもらったり、話をしてもらったり、意識を感じてもらう、そんな機会を増やせたらいいということで、これが行われたイベントの1つの例なのですが、このときは、まず最初に高齢者の振り込め詐欺。これがはやっておりましたので、それについての寸劇をさせていただきました。これは大学生のボランティアの方が、振り込め詐欺の寸劇をやってくれました。そして私たちのメンバーもその中に参加をさせていただいて、より具体的に事例を皆さんに見えるような形で、ステージ上で演劇をさせていただきました。その後、ここにもあるのですが、群馬県のキャラクター、ぐんまちゃん。そして群馬県警のキャラクターで、上州くんとみやまちゃん。男性と女性のイメージキャラクターです。その方たちにも来ていただきました。なぜかという、子供たちに少しでも多く参加していただけるように、そして子供たちの親、子供たちのおじいちゃんおばあちゃん、そういった世代にも皆さんで参加していただくために、キャラクターで参加してもらいました。それともう1つ、真ん中の左、戦隊ものがあるんですが、これは私たちの邑楽町、白鳥が飛来する沼があります。白鳥が飛来する沼がありまして、この3人のかたがたはスワンジャーという戦隊で、邑楽町を守ってくれるかたがたなんです。そういったかたがたは、大変子供たちにも絶大な人気がございますので、その方たちにも参加していただいて、そしてその人たちに、防犯のクイズを子供たちにしてもらいました。大変簡単なクイズなんですけども、子供たちに参加していただ

いて、実際にスワンジャーと触れ合っていました。その後スワンジャーたちと写真を撮っていただき、そんな時間も設けて、子供たちにも楽しんでこの防犯活動に参加していただきました。そういったことを定期的を実施しています。

**マスコットキャラクター
防犯クイズの実施**

**子供の安全対策から特殊
詐欺防止まで**

幅広い年齢層の参加

ゆるキャラが
クイズで啓発

13

活動における課題・解決への取組

活動の継続

- ・活動の意義や効果、やり甲斐について話し合う
- ・基本理念を忘れず、負担に思うことなく長く継続
- ・地域行事へ積極的に参加し、様々な世代との交流

地域を越えた防犯活動 1行政区では限界も

**定期的に連携し、合同パトロールを実施
情報交換により課題の解消も**

14

これが最後の様子で、キャラクターの方が皆さんそろっている状況です。今、イベントをやるから来てくださいというのをチラシを作ってお渡ししても、いいよねとは言ってくれるんですけど、なかなか足を運んでもらうのが難しいというのが実感です。そうした中でたくさんの工夫をして、子供たち、そして親の世代、またそのじいちゃんおばあちゃんの世代、どうやって集めるかっていうことで、できるだけ工夫をしながらやったのが今回のイベントでした。

活動における課題解決への取り組みとしまして、我々参加者がやりがいをどう感じるか。先ほど申し上げたように、我々で子供たちの命を守っているんだ、そういった思いをみんなで共有しながら意識の向上を図っています。そして、理念に基づいて無理のない活動、それは発足当時から変わっていません。参加してくださる方に感謝をして、無理のない活動を続けているのが今日でございます。それと、仲間を増やしていくために、各地域の行事に参加をして、できるだけそこで声掛けをさせていただいて、皆さんと共有をしているような状況です。そして今、数名の若い20代30代の方が入ってくれるようになりました。その20歳の方は実際に、小学生中学生頃にこの防犯イベントに参加してくれた方で、行政区の行事にも積極的に参加をしてくれる方で、今までは参加する側だったけど、これからは皆さんに参加してもらって側で協力を願いたいということで、数名の若い方にも入ってもらえるようになりました。課題としては、そういったかたがたをこれからも持続して長く活動してもらえるようにどうしたらいいかというのを考えていかないといけないかなというふうに考えています。また、私たちが目指しているのは、我々の地域だけの防犯活動ではなくて、違う地域の方と一緒にできる地域を越えた防犯活動です。夜間のパトロールには他の地域の方も、今、参加をしてくださっています。これからもぜひ多くの地域の方と一緒に活動を図っていききたい、そんなふうに考えています。

活動の成果

犯罪の減少

町内の刑法犯認知件数は、年々減少
町内において大きな事件や声かけ事案は発生なし
町内の特殊詐欺発生件数は、過去3年間0件

地域安心感の醸成

防犯パトロール活動により子供や地域の方から
「安心できる」との声も
地域において活動が認知されている

15

ご静聴ありがとうございました

16

そして、活動の成果ということなのですが、これは私たちだけの成果ではなくて、本当に私たちこの邑楽町皆さんの防犯に対する意識、また、少しずつの活動の成果が上がっていることは事実だと思います。そのことで私たちが安心できる町、皆さんがそう思ってもらえるような町に少しでも近づいてきているかなと、そんなふうにも考えています。先ほども申し上げたように、これからもたくさんの、私たちだけの地区だけじゃなく、たくさんのかたがたと活動を続けていきたい。そして世代を超えた、私たち一部の世代だけじゃなく、たくさん若い世代の方たちとも一緒に活動をしていけたら、そんな思いでこれからも活動を続けていきたいと考えています。

つたない説明で分かりにくかったかもしれませんが、以上で私たちの発表を終了させていただきます。どうも、ご清聴ありがとうございました。

講評

木宮 ありがとうございました。まず驚いたのが、非常に若い方が入られているというようなこと。平均年齢も53歳ですかね。多くのボランティア団体の中で高齢化というのは非常に大きな課題になってきている中で、こういった若い方が参加していただいているということ、これは非常に新しい発見かなと思います。特に子供の安全というところに注力されているということから、恐らくお父さんお母さん世代のかたがたが多く協力していただいているのかなというふうに思うんですけども、今後、多くの団体が継続していくというような課題の中で、その世代のかたがたに入っていただくというのは、非常に重要なポイントにはなりますので、非常にいい、先進的な例かなというふうに思いました。

防犯活動、パトロールなどの活動に加えて、いわゆる教育という部分、これに取り組みされているというところも非常にいいなというふうに思っています。マップ作りの例がありましたけれども、地域安全マップ作りというのは、当然、学校でもやるんです。学校の授業の一環とか、そういう形でやったりもしているのですが、実は学校でやるとあんまりうまくいかないということがたくさんあります。

1つは、学校の先生ってというのは、あんまり地域のことが知らないということなんです。地域住民ではありませんので。学校の外の話っていうと、いわゆる通学路という所は把握をしています。でも、通学路以外の道は、実は学校の先生ってほとんど通ったこともないというのが実情で、学校が中心になってマップ作りをやろうとしても、そもそも先生が町を知らないのです。子供たちはマップを作るんですけど、そのマップに対して教員がその後指導するっていうのが難しいんです。結局、作りっ放しになってしまうっていうことが非常に多くあります。

今回ご紹介いただいたように、地域の皆さんがこれだけ関わってマップ作りを一緒にやるっていうと、作った後もいろんなすごろくをやったりとか、作るだけではなくて、それをどう子供たちに伝えて理解

させるのかっていうようなところまで注力されてやられてると。これは、むしろ学校の先生に知っていただきたいというか、そういう話だなと思って聞いていました。だから、私もよく学校がやっているマップ作りってあんまりうまくいかないねとか、これは意味がないんじゃないかなっていうふうに思うことも多くあるんですけど、今日みたいな話は非常に参考になる話で、地域の方と一緒にやるっていうのが非常に意味があるなと思いました。

また、交通の話もありましたけれども、やはりここでも防犯だけではなくて、防犯活動のグループではあるけれども、実際には子供の命を守るという視点で言えば、防犯も交通も同じだということなので、交通安全の部分にも関わらせていらっしゃるといいます。ここも、これから求められることの1つだろうと。さまざまなリスク、先ほどは防災というのでも出ていましたけども、防災、交通、いろいろありますので、そういったところにもお手伝いいただいているということ、これも非常に、これからの形ということで望ましいなと思って聞かせていただきました。ありがとうございました。

霧が丘地区連合自治会（神奈川県）

皆さん、こんにちは。神奈川県霧が丘地区連合自治会の会長を務めています、塚田と申します。平成3年より、同会長を務めております。

同じく事務局の矢崎と申します。平成19年より事務局を務めております。よろしくお願いいたします。



早速ですが、私たちの霧が丘地区連合自治会の防犯活動について、発表させていただきます。

私たちの住む横浜市緑区は、神奈川県の西部に位置し、東京の町田市と隣接しております。この霧が丘地区は、昭和56年3月21日に十日市場町、新治町、長津田町、三保町の各一部を編入し、新設置された閑静な住宅地です。令和4年3月31日現在、1丁目から6丁目内に5026世帯、1万1670人が住んでおります。

団体の概要

- ・昭和56年「構成自治会の自主性を尊重し、自治会相互の連絡調整を行うとともに、地域住民の親睦と福祉を増進し、地域環境の向上発展を図ること」を目的として、自治会の連合として結成された空き巣ゼロ日本一を目指している連合自治会です。現在、13の自治会で形成されています。

空き巣ゼロ日本一の由来

空き巣は、財産的な被害だけでなく住環境にも影響し、経済的な損失と精神的な損失も大きいです。

ですから、安全で安心して暮らせるまちづくりには、空き巣の被害を無くすことが一番であるという考えです。

霧が丘地区の空き巣発生状況

平成24年	3件
平成25年	2件
平成26年	4件
平成27年	5件
平成28年	0件
平成29年	2件
平成30年	4件
令和元年	6件
令和2年	2件
令和3年	0件
令和4年	2件

防犯活動のスローガンは、『空き巣ゼロ日本一』です。このスローガンの由来ですが、空き巣は、財産的な被害だけでなく、住環境にも影響を与え、経済的な損失と精神的な損失も大きいことから、安全で安心して暮らせる街づくりには、空き巣の被害を無くすことが一番であるという考えでスローガンを立て、防犯活動をしております。空き巣の被害がゼロの年もありましたが、継続しておらず、残念ながら本年、発生があり、日本一という目標の達成はできていませんので、引き続き防犯活動を行ってまいります。私たちの団体は、昭和56年に『構成自治会の自主性を尊重し、自治会相互の連絡調整を行うとともに、地域住民の親睦と福祉を増進し、地域環境の向上発展を図ること』を目的として、自治会の連合として形成された連合自治会です。現在、1丁目から6丁目までの自治会で、13自治会があります。

活動内容① (防犯パトロール)

- ・ 昼間帯
毎月15日午前10時
25日午後3時
(各自治会は、適時行っています。)
- ・ 夜間帯
毎週土曜日午後9時
年約80回実施します。1回平均20人集まります。(年で約1,600人が参加します。)
- ・ 緊急時は、メールなどで連絡網が回り、すぐにパトロールを行います。



活動内容② (高齢者を見守る活動)

- ・ 平成25年霧が丘の高齢化率は、横浜市や緑区より進んでいました。
- ・ 平成27年から、パトロールを利用した独居高齢者世帯への戸別訪問活動を開始し、6年目となり「見守りの(芽)」が育っています。
また、特殊詐欺対策として、各戸に特殊詐欺防止啓発マグネットを配布しています。



年齢層	割合
高齢者	23%
中間世代	54%
若年層	23%

年齢層	割合
高齢者	21%
中間世代	54%
若年層	25%

次に私たちの防犯活動について説明いたします。まず、防犯パトロールは、昼間帯パトロールと夜間帯パトロールがあります。連合自治会として、毎月15日午前10時と25日午後3時に行っています。また、各自治会が各自で曜日と時間を決めて実施しています。昼の活動目的は、空き巣被害防止と子供・高齢者の見守り活動です。夜間帯は、毎週土曜日に午後9時に行っています。夜の活動目的は、落書きやいたずらの防止です。平成8年ころ、地区内で店舗窓ガラスを割られる器物損壊や落書きなどのいたずらが連続発生し、夜パトロールなどを開始しました。その後、発生が減少するなど一定の効果をえたので、夜パトロールを継続して行っています。昼夜合わせて、月に6回から7回パトロールを実施しておりますので、年にすると、平均80回くらい行っています。1回のパトロールに平均20人くらいは集まりますので、年で約1600人が、パトロールに参加します。また、空き巣やひったくりなどが発生した緊急時には、メールなど連絡網が回り、すぐにパトロールが開始されます。本当に、我々はすぐに活動します。

高齢者を見守る活動についてお話しします。霧が丘地区の高齢化は、横浜市や緑区よりも進んでおります。平成25年では、霧が丘地区の総人口のうち65歳以上が占める割合が、23%でした。それに比べ横浜市緑区は、21%でした。そこで、平成27年から、高齢者を不幸にしないための活動として昼の防犯パトロールを利用して高齢者世帯への戸別訪問を開始しました。開始して6年目となり、「見守りの目(芽)」が育ってきていると思います。また、特殊詐欺被害対策としても、各戸に特殊詐欺防止啓発マグネットや広報紙などを配布しています。ちなみに、平成29年には、霧が丘地区の高齢化率が28%になっていますので、引き続き高齢者を見守り活動を行ってまいります。

活動内容③ (防犯教育)

- ・ 防犯標語や防犯作文を地元小学校と連携し小・中学生から募集し、表彰するなど防犯意識の醸成を図っています。
- ・ 標語の優秀な作品は、看板を制作し、霧が丘地区内に掲げて住民に見てもらい、小学生自身の防犯意識や規範意識の向上を図っています。



地域の防犯・防災を考えた！

霧が丘地区 中野小学校

「防犯」って、この地区のみんなが協力して、悪いことを防いで、みんなが安心して暮らせるようにすることです。自分たちで考え、行動して、地域を良くしていくことが、防犯の本当の意味だと思います。みんなが協力して、悪いことを防いで、みんなが安心して暮らせるようにすることです。自分たちで考え、行動して、地域を良くしていくことが、防犯の本当の意味だと思います。

活動内容④ (情報発信活動)

- ▶ 広報紙を作成し、住民へ犯罪情報や防犯情報など最新の情報を提供しています。



霧が丘あんしんサポート

「見守りネットワーク」をより

「見守り」って、この地区のみんなが協力して、悪いことを防いで、みんなが安心して暮らせるようにすることです。自分たちで考え、行動して、地域を良くしていくことが、防犯の本当の意味だと思います。みんなが協力して、悪いことを防いで、みんなが安心して暮らせるようにすることです。自分たちで考え、行動して、地域を良くしていくことが、防犯の本当の意味だと思います。

大人だけでなく、子供たちにも、防犯・防災・教育を経験、体感させる活動を展開しております。防犯パトロールを児童にさせることは危険が生じる恐れがあり、賛否両論あると思いますが、当連合自治会では、教育を通じて防犯意識を高めてもらいたいとの思いから、小中学校と連携して、防犯作文や防犯標語などの作品を募集しています。この画面の右側に写っているのが、防犯について考えた中学生の作文です。隣に写っている緑の看板が、防犯について考えた小学生の標語です。そして、子供たちの防犯意識の醸成や規範意識の向上を図るため、優秀な作品は発表したり、看板にしたりして街に残します。効果は、あると思います。余談ですが、作品に対して、表彰や図書券を贈呈すると、後日、子供た

ちが手紙をくれて感謝を伝えてくれることが、とてもうれしく、このような教育も防犯活動のモチベーションにつながります。

ここに、我々が配信している3つの広報紙を載せてあります。右側から『霧が丘あんしんサポート』、年2回、『霧が丘』、年4回、『防犯・防災・環境ニュース』は年6回と、年で12回、広報紙をさまざまな角度から作成して、住民に情報提供を行います。情報提供は、重要です。最新の犯罪情報や防犯対策を提供することで、防げることもあるからです。そして、回覧にはしません。回覧にすると、目を通すだけで、自宅内に残らないからです。私たちの活動では、この広報紙を全戸に確実に配布しております。さらに、ここに記載する情報は、警察・消防・行政と常に連絡体制がないと最新の情報は得られませんので、常に公的機関とは情報のやりとりを行っています。

活動内容⑤
(防犯パトロール事務局会議・防犯サロン)

- 事務局会議は、各自治会から2名出席し、パトロールの実施状況や問題や表彰など情報共有を行い、計画などの見直しを行っています。(2名×7自治会)
- 防犯サロンは、事務局のみならず、各自治会パトロールの班長を2名加え、自治会全体の情報共有を図ります。(4名×7自治会)原則年3回、3月・6月・10月に開催しております

特に、女性の意見はとても大事!



表彰歴

(団体)

- 平成5年 神奈川県警察本部長褒賞
- 平成7年 県民のつどい(団体)
- 平成10年 県防連(団体)
- 平成27年 関防連(特別功労団体)

(個人)

- 令和2年 藍綬褒章(防犯功労)

防犯活動には情報共有の必要がありますので、会議を行います。事務局会議は、各自治会から2名出席し、防犯パトロールの状況を確認して計画などを見直したりします。また、現場サイドの話を情報共有するために、防犯サロンを原則年3回開催します。これはパトロールの班長を各自治体から2名加えて、現場の声や問題点の解消などを話し合い、パトロールに意見を反映します。この会議の中で、パトロール表彰者なども推薦、決定していきます。この会議で特に重要なのは、女性の意見です。理由は、方法が片寄らない、行動が片寄らないなどがあるからです。

以上のような活動を継続してまいりましたので、このようなさまざまな表彰をいただきました。表彰されるたびに、よし、頑張ろうという活力が湧いてきます。以上が我々の活動内容でした。

活動の課題

- ▶参加人員の確保
- ▶参加人員のモチベーション

課題解決に向けた取組①
(ネットワークづくり)

連合自治会組織図の委嘱委員に対しても、パトロールしながら独居高齢者宅訪問やゴミ拾いをしてもらうことにより、お互いの業務を兼任し、ネットワークを広げています。学校関係者や学童職員なども防犯活動に参加します。

霧が丘連合自治会組織図



霧が丘連合自治会機構系統図

人員確保

次に我々の団体が抱える課題についてお話しします。1つは、活動人員の確保が年々難しくなってきました。また、活動員の高齢化も進んでおります。もう1つは、人の活動なので、モチベーションを維持することが難しいということを感じております。先ほどの課題に対しての、解決の取り組みについてお話しします。人員の確保に関する取り組みです。防犯パトロール隊のみでの活動では、人数に限りがありますので、同時刻に同様の活動をされるかたがたがいれば、一緒にお互いの活動を行うことをしました。先ほど発表しました、高齢者見守り活動もそうです。環境浄化活動もそうです。それぞれ、特殊詐欺対策や空き巣対策にも対応しております。

今後の展望

昨年で、連合自治会設立40周年になりました。このように長年活動をしてこれたのは、人のつながりをととても大切にしてきたからだと思っています。

今後も「空き巣ゼロ日本一」をスローガンにいつまでも霧が丘地区に住みたいと思える街づくりを後輩や子供たちに継承されるように活動を継続していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。



最後になりますが、霧が丘連合自治会は、昨年40周年を迎えることができました。今振り返ると、私も長年、自治会活動をやってきたのですが、多くの方がお手伝いしてくれたおかげで、今日まで続けられました。一番勤務時間が遠いところは、朝6時に起きて出掛けて、夜は23時に帰ってきました。セブン-イレブンがはやり出した当方で、セブン-イレブン1時間ずつ朝も夜も長く働いたことがあります。防犯協会なり、緑警察署なり、神奈川県なりの発表でいつでもですが、本日はこのような機会を与えていただいたおかげさんで、昨年と今年と今までやってきたことの見直す機会にもなりまして、今後もさらに進歩したいと思っています。振り込み詐欺は、残念ながら一向に減りません。コロナは多少、減ってきたのですが、またここに来て増えてきてはいますが。毎回言うのですが、夫婦間でも、暗証番号、教えてないですよ、日本は。「親子間でも暗証番号、教えてないのに、何でたった一本の電話なり、封筒一本で教えちゃうのか」と言うんですが。誰でも笑うぐらいで、そうか、そうだなと思ってくれないんですね。100万、200万、1000万の被害を起きると、家庭が全然続かなくなる、その後が。うちのお母さんは、何で1000万もだまされたんだって。常々、いろんな文章を渡していますが、まだ、うちの町でも被害に遭っていると思います。ただ、なかなか届け出ませんので。ぜひとも振り込み詐欺もゼロにして、コロナも何とか収束して、私も含めて、今日参加の皆さんが健康で明るく、さらに犯罪がなくなるような国、県、市になればいいと思います。私も、さらに頑張っていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

講評

木宮 発表ありがとうございました。資料、冊子も拝見いたしましたけれども、まず、防犯のこともさることながら、自治会としての活動がこれだけ活発に広範囲で長いことやられていらっしゃるということ、これがまず素晴らしいなっていうふうに感じました。防犯ボランティア団体っていうと、いろいろな形があるわけなんですけれども、今日、先に発表された団体さんなんかも、例えば有志であったりとか、仲間内から草の根的に活動を広げていくというような形もあれば、今回のような自治会という組織、特に連合自治会という大きな組織として活動していくというような形もあるということで。この組織型というんですかね、そういう形で活動されている、1つのいい例かなというふうに思いました。なかなか、所帯が大きくなれば、それこそ皆さんの意識を保つとか、モチベーションを維持するとか、そういう点で非常に難しい部分があるのかなというふうにも思うんですけれども、ただ、これだけの活動を長くにわたって継続されているというの、これは、だから、それは自治会の力という、そういうところが背景にあるんだろうなというふうに思っております。

また、高齢者というところをターゲットにしていくというようなことも、特に直近のいわゆる犯罪被害の課題というか、その辺りと結び付いて非常に効果的ではないかなというふうに思います。これは、

地区によって、どのような方がお住まいかというところで課題は変わってくるかなと思うんですが、今日のご説明では、高齢化率が非常に高いということで、戸別訪問などされながら行っているということ、これは非常に丁寧で素晴らしいなというふうに思います。

また、ポイント制という、これも新しいやり方で。これ、組織ならではのこのようなことかなというふうに思うんですが、そういった組織の力とかイベントとか、いろんなものを活用して、多くの方に防犯活動に参加していただくと、そういった意味で、こういったポイントを与えようとか、また、そのポイントを使うことで親睦が深まって、さらに活動が活発になるという、ある意味で、楽しみながらやるんだと。100ポイントもらえるんだったらもっとやろうというような、そういう方も恐らくたくさんいらっしゃるのかなというふうにも思ったりしますので、非常に面白いやり方で、参考になる部分もあるかなというふうに感じた次第です。ありがとうございました。

地域で見守りプロジェクト ぴいす金津（新潟県）

皆さん、こんにちは。私たち、今日、新潟から参りました。『地域で見守りプロジェクト ぴいす金津』代表をさせていただきます、中野妙と申します。よろしくお願いいたします。

同じく和氣彰と申します。よろしくお願いいたします。



関東ブロック防犯ボランティアフォーラム

椅子を使った新しい防犯のカタチ

～地域全体で無理なく関わるができる防犯活動～

地域で見守りプロジェクト ぴいす金津

中野 妙
和氣 彰



活動地域 新潟県新潟市秋葉区



まず最初に、私のほうから、団体の概要をご説明差し上げたいと思います。

我々の、ぴいす金津という団体ですが、前の発表の団体のかたがたとは違って、3年前から活動を開始させていただいている団体です。有志の団体でありまして、もともと、この我々2人、地元の小学校のPTA会長をそれぞれ務めておりまして、4年前になります、皆さんもご存じだとは思いますが、新潟市で小学生の女儿が誘拐されて、殺害されて、線路に遺棄されるという大変悲惨な事件が起こりました。本当に身近な、我々同じ新潟市民といたしましては、非常にショックを受けた事件でありました。その当時のPTA会長と、私がおのこの新潟市の小中学校PTA連合会というところの、新潟市内のPTAを代表する会の副会長やっております、これはもうPTAとしても動かなきゃいけないなというところから考え始めたというのが、我々の活動のきっかけとなります。主題といたしましては、『椅子を使った新しい防犯のカタチ』ということで、今回は発表をさせていただきます。そういった活動の中で、地域全体で無理なく関わるができる防犯活動というものを最終的には考えたというお話になります。

活動地域 特色



我々の活動地域ですけれども、新潟市というのは、日本海側の政令指定都市でありまして、人口約80万人という中で、新潟市8区あります中の秋葉区というところに、我々の地域がございます。小学校が1つと中学校が1つということで、人口約7000人のコミュニティーになっております。ご覧の通り、里山に囲まれておりまして、自然豊かな地域となっております。最近、皆さまのところでもそうなのかもしれませんが、コロナ禍ということで、いわゆる不

審者事案、学校から来る不審者事案の件数も、ここ最近、激減しているという状態なのですが、ご覧の通り、こんな山がありますので、不審者よりも、最近は熊の目撃情報が頻発しております、そちらの

ほうが今、喫緊の問題になっている、そのような形になります。我々の、この金津地区というのが、一番左側、古津の八幡山古墳といったような史跡もあります。真ん中が県立の植物園ということで、日本海側ですので、冬になりますと1メートルぐらいの積雪があるところになります。こういうことも、我々の防犯活動、関係してまいります。皆さんご存じだと思います、一番左側、この新潟市秋葉区出身、日本のラグビー代表の笑わない男、稲垣選手というところが、我々の町の出身ということになっております。

この後、我々の活動概要のほうを大体6分間ぐらいの動画にしてありますので、そちらのほうを、まずちょっとご覧いただきたいと思います。



【動画】

『地域で見守りプロジェクトぴいす金津』のぴいすという名前は、PTAのPと椅子を組み合わせたもので、その名の通り、椅子を使った防犯活動です。新潟市にある金津小中学校のPTAが主体となり、地域団体や学校と共同で活動しています。寄付された椅子を住民の手で塗装し、犯罪の起きやすい条件の場所に設置することにより、人の気配を感じられる

安全な環境に変え、住民に座りながら見守りをしてもらおうという活動です。また、椅子があることでホットスポットがどこなのか分かりやすいという利点があります。

悲しい事件を未然に防ぐためには、普段から見守り活動をしているボランティアだけでなく、地域全体で見守りができる仕組み作りと、住民一人一人の防犯意識の継続が最も重要だと考え、活動を始めました。ヒントとなったのは、入りやすく見えにくいなど、犯罪の起きやすい条件の場所に注目した犯論と、東京吉祥寺で商店街活性化のために行われている『赤い椅子プロジェクト』の2つ。この2つを組み合わせ、ホットスポットに塗装した椅子を置いたら防犯効果があるのではないかと考えたところから生まれたのが、ぴいす金津です。主要メンバーは3人ですが、多くの住民に参加してもらうことが目的の1つでもあるため、あえて活動メンバーは限定していません。

それでは、活動内容を詳しくご紹介していきましょう。1、『あつめる』。家庭で不要になった椅子の寄付を募ります。地域団体、PTA、Facebook ページなどで広く呼び掛けて、塗装可能な木製の椅子を集めます。これはリサイクルになる他、寄付した椅子が見守りの椅子として通学路に設置されることにより、寄付した人の、防犯意識の向上と継続を図ります。

2、『ぬる』。椅子の塗装をします。地域住民や子供たちに参加してもらい、年に1度、塗装イベントを開催。安全性の高い水性の屋外用塗料を使用し、緑豊かな金津地区でも目立ちやすいよう、オレンジ色に塗ります。塗装イベントを毎年開催することで、参加した子供たちや地域住民の防犯意識の再確認、継続をねらっています。

3、『すわる』。椅子を設置し、住民に自由に座ってもらいます。塗料が乾いたらオリジナルステッカーを貼り、ニススプレーで仕上げ、ホットスポットに設置します。また、月に1度、椅子の点検に回り、汚れたり壊れたりしていないかチェックします。草取りなど、周辺の整備もしています。きれいに塗られ管理された椅子を設置することで、人が座っていなくても人の気配の感じられる、犯罪を実行しにくい環境に変えます。

4、『まもる』。子供たちによる『地域安全マップ』作り。普段、何気なく歩いている通学路を、入りやすく見えにくい危険な場所を探すという視点で子供たちが歩き、『地域安全マップ』を作ります。完成し

たマップは全校の前で発表し、情報共有します。自分の身を守るよう、子供たちの景色解読能力、どこが危険な場所なのかを見極める目を養います。最近では、椅子の意味を理解し座ってくれる住民が増えました。さらに、子供たちや住民に、入りやすく見えにくいというキーワードを覚えてもらえるようになりました。

また、普段忙しくてなかなか見守りができないという保護者や地域の皆さんでも、椅子を寄付する、塗装する、座る、地域で見かけるなど、無理なく関わることができ、椅子を通して防犯を意識できるよう工夫しています。現在、金津地区に設置されている椅子は16脚。今後、椅子の寄付が増えたら1カ所に2脚、3脚と複数の椅子を設置したいと考えています。そこに人がとどまって会話が生まれ、人が集う場所になれば、寂しかった危険な場所が安全な環境に変わるからです。そして将来的には、防犯だけでなく、椅子を通してさらに地域のコミュニティーが広がることを願っています。



ということで、皆さんありがとうございました。今の動画をご覧いただきまして、大体の私たちの活動がお分かりいただけたかと思えます。これからのお時間は、この活動に至るまでのきっかけについて詳しくご説明させていただきたいのと、あと、この活動の内容、詳細も補足説明ということでさせていただきたいと思えます。きっかけというのが、実はすごく大事なんです。私の個人的な経験とか、いろんなものが入ってきますけれども、ぜひ聞いていただければと思っております。先ほど説明にもありましたけれども、この活動のきっかけとなりましたのが、2018年新潟市西区でございました、小学校2年生の女の子が殺害されるという大変痛ましい事件でした。実は、私の子供も同い年の子供がいます。今年、小学校6年生で、来年には小学校を卒業して中学生になります。ですので、この犠牲になった女の子も来年には、小学校を卒業して中学生になるはずなわけなんです。ですが、この事件に巻き込まれなければ、私の子供と同じように中学生になっていたはずのそういった女の子が、このように事件に巻き込まれて、小学校2年生のままで命を終えてしまったというのが、本当に悲しい事件だなというふうに感じております。

この事件を受けまして、私ども金津地域でも、何と13年ぶりに防犯マップの見直し会議というものが行われました。私、その当時PTA会長でしたので出席をさせていただいたんですが、この中でいろんな疑問や不安が浮かんできたんですね。それを詳しく説明したいと思えます。まず、この出席者の中で、地元の人たちがたくさんいるんですけども、危険だと思う視点がばらばらなんです。例えばAさんは、ここが危険だと思うっておっしゃるんですけど、Bさんは、いやいやそこは危険じゃない、こっちのほうが危険だっておっしゃるんです。こんなに視点がばらばらで、この中で基準もないまま、ここが危険だっというふうに決めて、それを防犯マップに記載して、本当にそれで危険な場所っというのが確定されているのかどうかっていう疑問があったんですね。何か基準がなければいけないっという思いは、私の中にありました。あと、実は私、大学生の頃に東京に一人暮らしをしていたんですけども、後ろから口をふさがれるっという被害に遭ったことがあるんです。もう口をふさがれたことがある人だったら、

多分あんまりいないと思うんですけど、後ろからぐっとすごい力で口をふさがれますと、本当に呼吸ができないです。だから、叫びたくても叫ぶことができないんです。まず、呼吸ができないから。でも、それでも何とか叫び声を上げなければいけないということで、声にならない声を上げるわけです。必死に自分の全力の力を振り絞って抵抗しました。なので、大事には至らなかったんですけども、抵抗したことによって口の中も切れましてし、あと、服も後ろでこすったというか、地面のほうにこすり付けたことによって、背中のお気に入りのカーディガンを着ていたんですけども、それも破けましてし、翌日には、もう声が出ないほどでした。もう声にならない声を出したつもりだったんですけど、本当にもう声が出ないぐらいでした。

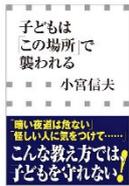
そういう経験をしているんですけども、事件が遭ったその環境というのが朝方、明るい時間帯だったんです。しかも、普段は人通りの非常に多い駅前のスーパーの近くだったんです。だから私、経験を通して、暗いから危ないとかではなく、普段、人通りがあるから安全だとかではなく、普段、人通りがあっても人通りが途絶える時間帯が必ずあるんだっていうのは、私、自分の経験を通して実感しているんですね。だから、皆さんの一般常識的な暗いところが危険とか、明るければ安全とか、人通りがあれば安全っていうような、そういう一般常識的なことって本当なのかなっていうのは、私、自分の経験を通して感じておりました。なので、この危険箇所を指定するっていうのってすごく難しいことだっていうふうに思っていたんです。あと、この防犯マップ、お金も時間もかけて作るんですけど、果たしてこれを配布したところで、本当に子供たちの命が守れるんだろうかっていうふうに思ったんですね。私、当時 PTA 会長だったので、保護者の皆さんにも聞いてみたんです。「配布されたこの防犯マップをもとに、実際に、危険だと指定された場所に行ってみましたか」って伺ったら、誰一人行っていませんでしたっていう方なんです。その防犯マップ、そのときは子供たちと確認したりするらしいんですけども、大体、冷蔵庫とかに貼ったりとか、あとは、もうどこかにしまって、もう二度と見ないとか、そういう防犯マップが非常に多いと思うんですね。だから、これを作って配っても本当に子供たちの命が守れるのかなという疑問がありました。それから、この金津地域、すごく、高齢のボランティアさんたち一生懸命、セーフティスタッフの皆さんが見守り活動をされていらっしゃいます。田舎なので人通りも少ないですし、人の気配の感じられない場所とかたくさんありますので、そういう危険な箇所を高齢のボランティアさんが毎日のように、くまなく見守るっていうのは、なかなか大変なものなんじゃないかと思いました。私たちのような保護者が一緒に見守り活動ができれば一番いいんですけども、仕事を持っていたりですとか、なかなか一緒に活動することができない。なかなか難しいんですけど理想としては、地域全体が防犯意識を高めて、みんなで見守ろうっていうそういう意識を持っていただくのが一番、多分、防犯効果があると思うんですね。そういう方法ってないんだろうかっていうふうに考えておりました。あと、そもそもなんですけど、見守りって立ってなきゃいけないのかなっていうのがありまして。高齢のボランティアさんが毎日、暑い中も寒い中も立ってらっしゃる姿を見ると、やっぱり大変だなんて思いますので、そもそも論なんですけど、立ってなきゃいけないのかなっていうのは、正直思っていました。

犯罪機会論と赤い椅子



立正大学 小宮信夫教授
犯罪機会論

吉祥寺 赤い椅子プロジェクト



犯罪機会論



「人」ではなく「場所」に注目

キーワードは「入りやすく、見えにくい」

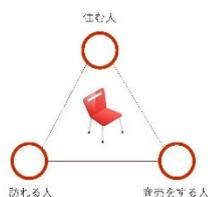
割れ窓理論



こんなふうに、いろいろともやもやと考えているところで出会ったのが、犯罪機会論と『赤い椅子プロジェクト』の2つです。この犯罪機会論というのが、立正大学の小宮信夫教授、多分、木宮教授も同じだと思うんですけども、犯罪学の第一人者でいらっしゃる。この先生の『子供は「この場所」で襲われる』という本をたまたまこのタイミングで読みました。また、私、SNS で吉祥寺で行われています『赤い椅子プロジェクト』という、これが防犯活動、全く関係ないんですけども、商店街活性化のための取り組みを知ったんですね、たまたま。

まず犯罪機会論については、これから木宮教授からもお話があるかもしれませんが、犯罪を犯そうとする人っていうのが見た目では決して判断することができません。ただ、犯罪が起きやすい場所に関しては世界的な共通点があるということで、その中の代表的なものが、キーワードとしては入りやすく見えにくい場所なんですね。下のこの公園の絵にもある通り、このバツしてあるほうの公園は、一見、ちょっと環境の良さそうな公園ですけども、中に入りやすい。入りやすいけど、外からは実は見えにくい公園なんです。マルをしてあるほうの公園は柵もしてありまして、外から入りづらい。だけど、住宅の窓を面しているので見えやすいという公園で、比較すると左側の公園のほうが安全だということになるんです。あと、割れ窓理論ということで、これから多分、教授からもお話があると思うんですけども、いわゆる放置された印象を与える場所、こういったところが犯罪が起きやすいというふうに言われているんです。

吉祥寺 赤い椅子プロジェクト



吉祥寺 赤い椅子プロジェクト



一方、吉祥寺の『赤い椅子プロジェクト』というのは、椅子を吉祥寺なのでおしゃれなお店などもたくさんありますので、その店先に塗装した赤い椅子を置いてもらうことによって、そこに人が座って会話が生まれるということで、吉祥寺に住む人、そして吉祥寺を訪れる人、そして商売をする人を結び付けていこう、それを地域の活性化のために役立てようという取り組みなんです。

これをたまたま私、SNS で発見しまして知ったんですけども。一応、私たちの活動するにあたって、『赤い椅子プロジェクト』のちょっとパクリみたいになってしまうといけなないので、一応、『赤い椅子プロジェクト』さんにも実際にお会いしまして、姉妹プロジェクトということで。目的は全然違うんですけども、認定をさせていただいております。

こんなことができるかも・・・



犯罪機会論×赤い椅子プロジェクト = びいす金津



活動内容

- ・あつめる
- ・ぬる
- ・すわる
- ・まもる



この2つを組み合わせ、犯罪機会論という、入りやすく見えにくい場所に『赤い椅子プロジェクト』のような人の手で色が塗られて管理された椅子を設置したら、防犯効果があるんじゃないかっていうそういうアイデアのもとに生まれたのが、このびいす金津の活動になります。

では、活動内容です。先ほども動画でご紹介したので、さらっとご説明します。

あつめる



ぬる



PTA関係者を中心に参加者の募集を行い、毎年約30名程度で「塗装イベント」を実施。



不要になった木製の椅子を寄付していただいています。

この塗装イベントというのは、毎年1回開催しております。椅子ってもともと、もう塗装がされているものが多いんです。なので、一度、塗装をはがして。これがまたちょっと大変な作業ではあるんですけども、はがした上で塗装イベントに出して、子供たちや地域住民にオレンジ色に塗ってもらうということをしています。

ぬる



塗装をはがし、オレンジ色のペンキを塗ります。



すわる



安全マップで探り出した「ホットスポット」に椅子を設置



なぜオレンジ色なのかといいますと、金津地域で普段見守りをしてくださっている、セーフティスタッフさんのジャンパーの色がオレンジなんです。だから、子供たちにとっても、オレンジ色って安心、安全なイメージがあるということと、あと、東京タワーって一見赤く見えますけど、あれ実はオレンジだっただけでご存じでしたか。インターナショナルオレンジっていう色で、あのオレンジ色が実は、青い空とか、自然の緑の中で一番映える色、一番目立つ色なんだそうです。なので、金津地域も田舎なので、そういった緑の中で一番目立つようにということで、このオレンジ色を塗ってもらっています。

そして『すわる』ということで、このホットスポットに設置されました椅子を、地域住民に座っていただいています。

すわる



まもる



「入りやすく、見えにくい」という観点で、子ども自身で通学路の「地域安全マップ」づくりを実施。



田舎なので、結構、道端とかに座っているおじいちゃん、おばあちゃんも多いんですよ。そういう方々に普段、もう座るだけでも見守り活動になりますよということで、ぜひこれも自由に座ってくださいということで、お知らせをしています。

『まもる』。これは他の団体さんもやってらっしゃいましたけれども、子供たちによる『地域安全マップ』づくり。これ、子供たちの当事者意識、自分の身は誰かから守ってもらうんじゃなくて、自分自身でも守ろうというのがすごく大事だと思いますし、実際このマップを作ってもらって思ったのは、大人が作ったマップって目印になるものが大体、公共施設とかお店だったりするんですよ。だけど、子供たちが作ったマップって目印になるのが、なんとかちゃんの家とか、そういうのが基準なんですね。だからやっぱり、子供の目線って全然違うんだなっていうのをあらためて感じさせていただきました。

活動成果



活動成果



「入りやすく、見えにくい」を覚えてもらった

不審者情報が多くなった (学校からの連絡メール)

そして活動の成果です。

まだ3年目ということで若い団体ですので、成果があるかって言われるとちょっとあれなんですけれども、まずは、子供たちや地域住民にも、入りやすく見えにくいという、このキーワードを覚えてもらったっていうのはすごく大きな成果かなと思います。それから、この下の、不審者情報が多くなったっていうのは、一見、悪いことのように感じるかもしれませんが、ですが実際は、不審者事案は少なくなっています。だけど、子供たちから挙がってくる不審者情報が多くなったんです。要は、学校とか親に知らせてくれる不審者情報がすごく多くなったんですね。だから、学校からの配信メールとかもすごく増えました。実際に不審者じゃなかった件も、もちろんあるんですけども、それだけ子供たちの防犯意識が高くなった証拠だなというふうに思っています。

反響



新聞

TV

ラジオ



今後の展望



- 大切なのは手段ではなく「人の気持ち」
- ほかの地域へ、活動の拡散
- 椅子を増やし、会話が生まれ、人がとどまり、地域の絆が深まる



地域のまちづくりへ

そして、この、びいす金津の活動、なかなか椅子を使った防犯活動っていうのは珍しいということで、新聞やテレビ、そしてラジオなどの取材もいただいておりますし、地元の秋葉警察署さんからも感謝状をいただいたりですとか、あと、立正大学の学生さんの、卒業論文の取材ということで申し込みがあったりですとか。あと、三重県のほうからも紹介をいただいたりとか、いろいろ県外の方からも、SNSで発信しているのもありますけれども、さまざまところから反響をいただいております。

今後の展望といたしましては、私たち、椅子を使う防犯活動ということで、手段のほうにだけすごく注目いただくことが多いんですけども、実は手段ではなくて、一番大切なのは、人の気持ちだと思っています。新潟市西区の事件があった直後というのは、もう新潟市内、本当にみんなびりびりして、防犯意識がすごく高まったんです。だけど、人の気持ちってやっぱり変わっていくものなんです。だから、時間とともに防犯意識ってどんどん薄れていくんですね。それが、防犯意識を高い状態でいかに保つかってというのが一番大切だと思っていますので、動画の中でも説明したように、椅子を寄付する、それから塗る、座る、そして町中でその椅子を見掛けるということだけでも、椅子を通して防犯意識というものを皆さんが思い出してくれてればすごくいいなと思いつつながら、この活動をしています。それから、田舎じゃないと、なかなかこういう設置する場所もなかったりとか難しい地域もあるかもしれないんですけども、ぜひ、金津地域だけじゃなくて他の地域にも、こういった活動が広がるといいなというふうに思っていますし、動画のほうにもありました通り、椅子の寄付がどんどん増えたら、もっと2脚、3脚と増やして、その場所に人がとどまって、危険だった場所が安全になるといいなというふうに思っております。

まとめ



他の防犯団体と情報共有し
さらに安心安全なまちへ



ご清聴ありがとうございました



最後まとめです。私ども、この金津地域にはセーフティスタッフさんの他に、わんわんパトロールという犬の散歩をしながら見守り活動をしてくださっている団体もあります。これらの団体と情報共有しながら、よりスピーディーな体制を取れるようにしていきたいなと思っていますし、先ほど和氣からもちょっと説明がありましたけれども、私どものこの地域、今は不審者情報とかあんまりないんですけども、クマとかイノシシとか本当に最近。6月11日からこれまでに7件のクマの目撃情報があるっていうくらい、すごい地域なんです。それで私、実は、この防犯活動以外にもクマ、イノシシ対策の活動もしてまして、そちらのほうも大変なんですけれども、でも、例えばクマを見つけましたとかっていうと

きも、この見守りの人たちの情報共有っていうのがスピーディーかどうかっていうの、すごく重要だと思うんですね。だから、犯罪者に関わらず地域の安心、安全を守るために、他の団体とも協力していきたいなと思っております。

ということで、以上、ぴいす金津の活動をお話しさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。

講評

木宮 ありがとうございました。非常に新しい形の防犯っていうものを見せていただいたなっていうふうに思います。いわゆる防犯団体というよりはプロジェクトとこういうふうに名前が付いているように、1つの目的のもとに活動していくという、非常に先進的な例かなというふうに思います。特に、もちろん地域性の話もありましたけれども、高齢者が多い地域であったりとか、目が届きにくい、そういった地域性というものを踏まえて、こういった話が出てきたのかなというふうに思うんですけども、特に、非常にいいアイデアだなというふうに感じる部分でいうと、仕掛けの部分ですね。最近、これは防犯に限らず交通も防災もそうなんですけれども、実際に人の行動をどうするかっていうのが非常に大きな課題なんですよね。例えば、見守り活動にどう人を参加させるのかみたいな話だったりとか、子供たちの行動をどう変えるのかみたいないわゆる行動変容と呼びますが、これが大きな課題になっていると。行動変容させるやり方は、もちろんいろいろあって。例えば、先ほどの団体さんはポイントをあげるというやり方、これ1つのやり方なんですよね。いわゆるノベルティと言われるような、何かご褒美をあげて人の参加を呼び込むというやり方もあるし、極端な話は来ないと罰を与えるというようなノルマを与えるとか、そういうやり方で人の行動を変えとかいろんな方法がある中で、最近のはやりの行動経済学ですけども、ナッジの一種かなっていうふうに感じています。ナッジそのものはいろんなところで使われているものですけども、何となく行動しちゃう。椅子があるから何となく座っちゃうと。座りなさいと言っているわけじゃないんだけど、そこに椅子を置くだけで、人が自動的に参加するみたいな仕掛けですよね。これは非常に新しい考え方に基づくもので、行動変容の1つの形だろうというふうに思います。人を行動させるというような、この後これで多くの人実際に椅子を使って活動に参加していったというような事例が、これからだんだん増えていくと。また多くの地域でこういったことを広めていくということで、実際に人を参加させるっていうやり方の1つの方法として、非常に参考になるような話になっていくのかなっていうふうに感じているところです。ちょっと他の団体さんと毛色が違うような取り組みというようなことで、非常に、逆に参考になる部分があるのかなと思って聞かせていただきました。非常に勉強になる話で、ありがとうございました。